午　後

（令和８年10月４日）

次の注意事項を答案用紙と対照しながら声を出さずに読んでください。

注　意　事　項

1. 受験地、受験番号及びカナ氏名の確認

はじめに、答案用紙の右上に、あなたの受験地、受験番号及びカナ氏名が印刷してありますので、**内容を確認してください。**

違う場合は、手を挙げて申し出てください。

（例）受 験 地　東京都
受験番号　20456
フリガナ
氏　　名　健康（ケンコウ）　太郎（タロウ）
の場合、次のように記入されています。

受 験 地	東 京 都	受 験 番 号	２０４５６
フ リ ガ ナ	ケンコウ　タロウ		
氏　名(漢　字)			

この欄は記入しないこと	北海道	宮城県	■東京都	愛知県	大阪府	福岡県
	0	■	0	0	0	0
	1	1	1	1	1	1
	■	2	2	2	2	2
	3	3	3	3	3	3
	4	4	■	4	4	4
	5	5	5	■	5	5
	6	6	6	6	■	6
	7	7	7	7	7	7
	8	8	8	8	8	8
	9	9	9	9	9	9

2. 漢字氏名の記入

次に、氏名（漢字）欄に、あなたの氏名を**漢字（かい書）で正確に記入してください。**

3. 問題の数及び試験時間

この時間に解答する問題の数は**90問**で、解答時間は**13時30分～16時30分**の３時間です。

（裏面につづく）

4. 解答方法

(ア) 各問題には(1)から(5)までの五つの答えがありますので、そのうち質問に適した答えを一つ選び、次の例にならって答案用紙に解答してください。なお、**二つ以上解答する（塗りつぶす）と誤りになります**ので注意してください。

〔例〕 問題 20　次のうち、県庁所在地ではない市はどれか。

(1) 山形市
(2) 千葉市
(3) 川崎市
(4) 神戸市
(5) 福岡市

正解は(3)ですので答案用紙の

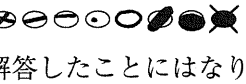
問題 20　① ② ③ ④ ⑤ のうち、 ③ を塗りつぶして

問題 20　① ② ● ④ ⑤ としてください。

(イ) 採点は、光学式読取装置によって行いますので、答案用紙への**解答はＨＢの鉛筆を使用**し、○ の外にはみ出さないように濃く塗りつぶしてください。ボールペン、消せるボールペン、サインペンは装置が読み取らないので採点できず、解答したことにはなりません。

なお、**シャープペンシルを使用する場合は、なるべくしんの太いものを使用**してください。

良い解答の例…… ● （濃く塗りつぶしてください。）

悪い解答の例……  （このような場合は装置による読取りができず、解答したことにはなりません。）

(ウ) 一度解答したところを訂正する場合は、「**消しゴム（プラスチック製の消しゴムが良い。）**」で消し残りのないように完全に消してください。鉛筆の跡が残ったり、  のような消し方などをした場合は、訂正したことになりませんので注意してください。

(エ) 答案用紙は、折り曲げたり、チェックやメモなどで汚したりしないよう、特に注意してください。

5. その他の注意事項

(ア) 試験問題等の印刷不鮮明、落丁がある場合には、手を挙げて申し出てください。

(イ) この問題は、持ち帰っても構いません。

(ウ) 問題の内容についての質問には、一切お答えできません。

(エ) 電卓等の計算用具の使用は認めません。なお、電卓等を使用した場合は、不正行為となり退場となります。

(オ) 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末（スマートウォッチやスマートグラス等。）、タブレット端末等の電子機器類の使用は認めません。電源を切ってカバンなどにしまってください。なお、これらの使用は、不正行為となり退場となります。

(カ) 机の上には、受験票、ＨＢの鉛筆又はシャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り、定規及び腕時計（通信機能・計算機能がなく音を発しないものに限る。）以外は置かないでください。

(キ) 健康上の理由により、試験中に薬等の服用が必要な方は、試験開始前に監督員に申し出てください。

問　　題

◎指示があるまで開かないでください。

建築物の構造概論
給水及び排水の管理
清　　掃
ねずみ、昆虫等の防除

問題　91　東京において、建築物の晴天日における日射量に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　夏至の日の日積算日射量は、南向き鉛直壁面よりも東向き鉛直壁面の方が多い。

(2)　冬至の日の日積算日射量は、南向き鉛直壁面よりも水平面の方が多い。

(3)　南向き鉛直壁面が受ける日積算日射量は、夏至の日よりも冬至の日の方が多い。

(4)　西向き鉛直壁面が受ける日積算日射量は、年間を通して東向き鉛直壁面と同じである。

(5)　夏至の日の正午における方位別日射量は、水平面が他の鉛直壁面に比べて最も多い。

問題　92　都市及び建築の熱環境に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　室温は、屋外の気温やその他の気候要素等の影響を受けて時々刻々と変化する。

(2)　熱帯夜とは、夕方から翌朝までの最低気温が25℃以上の日をいう。

(3)　温室効果とは、太陽光線が大気中の二酸化炭素などに吸収され、大気が温まることで地球上の気温が上昇することをいう。

(4)　コンクリート建造物等の熱容量の大きな建造物は、日射熱を日中吸収し蓄熱する。

(5)　緑地などの減少により土地の保水能力が低下すると、蒸発潜熱による冷却効果が小さくなる。

問題　93　建築物の荷重又は構造力学に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　地震力の構造計算をする場合の積載荷重は、基礎を計算する場合の積載荷重より大きく設定されている。

(2)　片持ち梁（ばり）に等分布荷重が作用する場合、せん断力はその固定端が最も大きい。

(3)　多雪地域では、積雪荷重を長期荷重として扱う場合がある。

(4)　せん断力は、部材内の任意の面をずれさせるように作用する応力をいう。

(5)　構造体や仕上げ材料等は、固定荷重に含まれる。

問題　94　建築の構造計画と構造設計に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　各階の柱・壁は、上下階がなるべく同一位置になるように配置する。

(2)　筋かい（ブレース）は、主に地震力や風圧力に抵抗する。

(3)　構造設計では、構造計画に基づき骨組の形式や構造材料を選択する。

(4)　許容応力度は、建築物に作用する荷重に対して部材の安全性を確保するために定められた。

(5)　免震構造においては、一般に建物の揺れを制御・低減するためのダンパに座屈拘束ブレースなどが用いられる。

問題　95　建築材料とその性質に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　強化ガラスの強度は、通常の板ガラスの３～５倍である。

(2)　大理石は、雨水に曝（さら）されると風化する。

(3)　多孔質系断熱材の熱伝導率は、一般に繊維質系断熱材よりも小さい。

(4)　コンクリートの引張強度は、圧縮強度の 10 %程度である。

(5)　鋼材の降伏強さは、一般に応力－ひずみ曲線の最大強さとして求められる。

問題　96　建築生産に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　型枠工事は、仮設工事に分類される。

(2)　スケルトン・インフィル（SI）建築物では、構造躯（く）体と設備は分離されている。

(3)　工事契約に必要な書類は、工事請負契約約款、設計図書、工事見積書などである。

(4)　工事監理は、設計者が建築主の委託を受けて代行する場合が多い。

(5)　建築工事の工程は、仮設、地業、躯体、仕上げの各工事に大別される。

問題　97　駐車場法に規定する駐車場・駐車施設に、**該当しない**ものは次のうちどれか。

(1)　路上駐車場

(2)　附置義務駐車施設

(3)　専用駐車場

(4)　都市計画駐車場

(5)　届出駐車場

問題 98 都市ガス及びガス設備などに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1) 都市ガス（13 A）の低位発熱量とは、水蒸気の潜熱を含む場合の発熱量のことである。

(2) LNG は、天然に産出した天然ガスを冷却し無色透明な液体にしたものである。

(3) 都市ガス（13 A）の単位体積当たりの発熱量は、LP ガスに比べて小さい。

(4) 整圧器とは、ガス配管の２次側の圧力を一定範囲に整圧するための減圧装置のことである。

(5) 都市ガス（13 A）の保守管理において、配管、ガス栓、ガス漏れ警報器の日常点検は、ガス設備の所有者又は使用者が行う必要がある。

問題 99 建築物内の昇降設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1) 新築の建物では、機械室なしエレベーターが普及している。

(2) 小荷物専用昇降機は、かごの床面積及び天井高の上限が定められている。

(3) 動く歩道の定格速度は、勾配に応じて定められている。

(4) 乗用エレベーターには、地震時に避難階まで自動運転する管制運転装置を備える必要がある。

(5) エスカレーターには、当該竪(たて)穴区画の防火シャッタ閉鎖時に連動して停止する制動装置が設けられている。

問題 100 建築物の防火に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1) 避難安全検証法や耐火性能検証法は、建築基準法令に定められている性能規定である。

(2) 火災荷重とは、空間内の可燃物量を木材換算した単位床面積当たりの重量のことである。

(3) 火勢は、窓などの開口条件によらず、建物内部の可燃物量が多いほど激しくなる。

(4) 避難経路となる廊下や階段に煙が侵入しないよう、防排煙対策が必要である。

(5) 特定防火設備とは、シャッタや防火扉等、火災を閉じ込めることができる設備のことである。

問題 101　火災性状に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　フラッシュオーバは、不完全燃焼状態にある部屋にドアや窓が開いて酸素が急激に流入し、可燃性ガスが爆発的に再燃焼する現象である。

(2)　火災時に階段等の竪穴区画に煙が入った場合、煙突効果によって上階へ急速な煙の伝播を招くおそれがある。

(3)　減光係数は、煙中における単位通過距離当たりの光の減衰率を対数で表した光学的数値である。

(4)　火災時に室内の上部に形成される高温度の煙層は、火勢の拡大を促進させる要因の１つである。

(5)　プルームは、火源の上方に形成される燃焼反応を伴わない熱気流のことである。

問題 102　火災時の避難計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　特定一階段等防火対象物とは、２階以上の階に特定防火対象物の用途が存する防火対象物で、階段が１つしかないものである。

(2)　避難計画の原則として、廊下の端部に階段を配置する等、２つ以上の避難経路を確保する二方向避難とし、行き止まりのある平面計画は行わない。

(3)　扉は、一般的に避難経路幅に比べて扉幅が狭いため、火災発生時には、廊下や非常口に避難者が殺到し滞留が生じやすい。

(4)　超高層ビルなど避難に長時間を要することが予想される建築物の場合、避難経路上に火災危険から守られた安全区画を段階的に設定する。

(5)　避難器具は、廊下、階段、非常口等の避難施設が火災や煙等で使用できない場合に、逃げ遅れた人を避難させるための器具である。

問題 103　建築基準法に規定する主要構造部として、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　基礎

(2)　柱

(3)　床

(4)　屋根

(5)　階段

問題 104　建築基準法に規定する居室に、**該当する**ものは次のうちどれか。

(1)　事務所ビルの廊下

(2)　店舗ビルの車庫

(3)　図書館の洗面所

(4)　百貨店の商品倉庫

(5)　ホテルの宴会場

問題 105　建築物の管理に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　ファシリティマネージメント（FM）とは、企業、団体等が組織活動のために、施設とその環境を総合的に企画、管理、活用する経営活動と定義されている。

(2)　二次エネルギーとは、一次エネルギーを変換や加工して得られるエネルギーのことである。

(3)　SDGsとは、国連サミットで採択された国際目標で、2030年までに持続可能でよりよい社会を目指すものである。

(4)　CASBEEとは、中央監視、エネルギー管理、ビル管理、施設管理を含んだ包括的な管理システムである。

(5)　LEEDとは、再生可能なクリーンエネルギーを促進する建築物の環境評価システムであり、アメリカで開発されたものである。

問題 106　給水及び排水の管理に関する用語と単位の組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　線膨張係数 ―――――― 1/℃

(2)　水の比体積 ―――――― m^3/kg

(3)　総アルカリ度 ―――――― mg/L

(4)　給湯器の加熱能力 ―――― kJ

(5)　水槽内部照度 ―――――― lx

問題 107　給水及び排水に関する用語とその説明との組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　差込みろう接合 ―――― 継手の受口に管を差し込んで、その部分を加熱し、受口と管の隙間にろう材を流し込んで接合する方法

(2)　DPD 法 ―――― 水道水の残留塩素を発色試薬を用いて簡易に測定する方法

(3)　誘導サイホン作用 ―――― 排水が器具排水管内を満流で流れるときに、サイホンの原理によってトラップ内の封水が引かれ、残留封水が少なくなる現象

(4)　毛細管現象 ―――― トラップのウェアに引っ掛かった糸くずや毛髪により、漸次封水が減少する現象

(5)　着色障害 ―――― 主として給水配管材料の腐食による生成物が水に溶解することにより起こる現象

問題 108　給水及び排水に関する用語の組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　ウォータハンマ ―――― 水撃作用

(2)　ゾーニング ―――― 高層建築物の給水圧力調整

(3)　バルキング ―――― 活性汚泥が沈降しにくくなる現象

(4)　ボールタップ ―――― 受水槽の水位調節

(5)　バイオフィルム ―――― 合成樹脂管の熱的劣化皮膜

問題 109　給水管理に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　水質検査の結果、病原生物などが水質基準を超えて水に含まれ、かつ人の健康を害するおそれがある場合は、直ちに給水停止措置をとる。

(2)　残留塩素濃度の定期検査は、最もその濃度が低いと考えられる末端給水栓で行う。

(3)　飲料水系統配管の維持管理について、管洗浄の終了後、給水を開始しようとするときは、水質検査等の措置を講ずる。

(4)　給水設備の老朽化に伴って、水量・水圧が減少することがある。

(5)　一般に水質の官能検査では、味覚による確認は衛生上の支障があるため、水の色、濁り、臭いを確認する。

問題 110　水道法に基づく水質基準に関する省令に定める基準として、**誤っている**ものは次のうちどれか。

(1)　大腸菌は、検出されないこと。

(2)　総トリハロメタンは、0.5 mg/L 以下であること。

(3)　ホルムアルデヒドは、0.08 mg/L 以下であること。

(4)　銅及びその化合物は、銅の量に関して、1.0 mg/L 以下であること。

(5)　pH 値は、5.8 以上 8.6 以下であること。

問題 111　受水槽の構造に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　流入管は、受水槽内部で水没させず吐水口空間を確保する。

(2)　水抜き管は、オーバフロー管に接続させずに単独の配管とする。

(3)　水抜き管の管末には、防虫網を設けない。

(4)　オーバフロー管に設置する防虫網の有効開口面積は、オーバフロー管の断面積以上とする。

(5)　オーバフロー管の管末は、排水時の跳ね上がりを考慮して、ホッパー内で排水口開放させる。

問題 112　給水設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　便所洗浄水として利用する雑用水用受水槽は、最下階の二重スラブ内に計画してもよい。

(2)　逆サイホン作用とは、給水管内に生じた負圧により、水受け容器にいったん吐水された水が給水管内に逆流することである。

(3)　クロスコネクションとは、飲料水系統と他の配管系統を配管などで直接接続することである。

(4)　大便器洗浄弁には、圧力式バキュームブレーカを設置する。

(5)　雨水を原水とする雑用水用受水槽では、吐水口空間を確保して上水を補給する。

問題 113　給水設備の配管に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　上水給水管と排水管が平行して埋設される場合には、上水給水管は排水管の上方に埋設する。

(2)　建物の揺れ、配管の振動等による変位を吸収するため、貯水槽と配管との接続には伸縮継手を使用する。

(3)　機器との接続配管は、機器の交換の際に容易に機器が外せるフランジ接合などとする。

(4)　揚水管は、高置水槽に向かって上り勾配で配管する。

(5)　止水弁は、給水立て主管からの分岐部等に設置する。

問題 114　給水方式に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　直結増圧方式では、増圧ポンプの配水管側に、減圧式逆流防止器を設置する。

(2)　圧力水槽方式は、受水槽、給水ポンプ、圧力水槽と空気圧縮機で構成する。

(3)　高置水槽方式は、安定した水圧・水量が得られる。

(4)　ポンプ直送方式は、小型圧力タンクを設置している例が多い。

(5)　直結増圧方式では、給水立て管の最上部に空気抜き弁を設置する。

問題 115　給水設備に用いる弁類の説明として、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　仕切弁 ―――― 弁体が管路を垂直に仕切るように開閉する構造である。

(2)　減圧弁 ―――― ダイヤフラムと調節ばねのバランスにより弁体の開度を調整する構造である。

(3)　玉形弁 ―――― 通路を開けた弁体を回転させて開閉する構造である。

(4)　電磁弁 ―――― 電磁力によって弁体を動かして開閉させる構造である。

(5)　リフト式逆止弁 ―――― 水平方向に設置して反対方向への流れを阻止する構造である。

問題 116　配管材料とその接合方法との組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　ステンレス鋼鋼管 ―――― メカニカル形接合

(2)　水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 ―――― フランジ接合

(3)　硬質ポリ塩化ビニル管 ―――― 融着接合

(4)　銅管 ―――― メカニカル形接合

(5)　水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 ―――― ねじ接合（管端防食継手の場合）

問題 117　貯水槽の清掃に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　清掃終了後は、２回以上貯水槽内の消毒を行う。

(2)　清掃終了後の水質検査における色度の基準値は、５度以下である。

(3)　消毒後の水洗い及び水張りは、消毒終了後少なくとも 30 分以上経過してから行う。

(4)　清掃終了後の消毒は、有効塩素濃度 10 ～ 20 mg/L の次亜塩素酸ナトリウム溶液などの塩素剤を用いる。

(5)　清掃終了後の水質検査における遊離残留塩素濃度の基準値は、0.2 mg/L 以上である。

問題 118　循環配管の管長が 100 m、循環配管からの単位長さ当たりの熱損失が 40 W/m の給湯設備で給湯循環流量を算出した場合、その値として**最も近い**ものは次のうちどれか。

ただし、次の算定式を用い、加熱装置における給湯温度と返湯温度の差を 5 ℃とする。

$$Q = 0.0143 \times H_L \div \Delta t$$

ここで、　Q：循環流量［L/min］

H_L：循環配管からの熱損失［W］

Δt：加熱装置における給湯温度と返湯温度との差［℃］

(1)　6 L/min

(2)　12 L/min

(3)　24 L/min

(4)　36 L/min

(5)　58 L/min

問題 119　給湯設備の配管に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　銅管は、循環配管を設けない一管式配管において腐食の発生がほとんどない。

(2)　横管が凹配管となる場合は、水抜きのための止水弁を設ける。

(3)　樹脂管を温度の高い湯に使用すると、塩素による劣化が生じやすい。

(4)　循環経路を有する給湯方式では、循環ポンプの揚程は、循環管路系で最も長くなる管路における摩擦抵抗と局部抵抗による圧力損失から決定する。

(5)　ベローズ形伸縮管継手は、スリーブ形伸縮管継手に比べて伸縮吸収量が大きい。

問題 120　給湯設備に使用される材料に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　耐熱性硬質ポリ塩化ビニルライニング鋼管には、管端防食継手を使用する。

(2)　ステンレス鋼鋼管は、酸化被膜による母材の不動態化によって耐食性を維持している。

(3)　銅管は、管内の流速が速いと潰食（かい）が生じる。

(4)　ポリブテン管の線膨張係数は、銅管と比較して小さい。

(5)　樹脂管は、使用温度が高くなると許容使用圧力は低くなる。

問題 121　給湯設備の省エネルギーに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　器具ごとに定流量弁を設置する。

(2)　部分負荷を考慮し、エネルギー利用効率の高い熱源機器を採用する。

(3)　排水を熱源水として熱回収する場合、熱効率を向上させるため、直接熱交換する。

(4)　配管経路を短縮する。

(5)　温排熱が多量に生じる施設において、ヒートポンプにより排熱を回収する。

問題 122　給湯設備の保守管理に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　開放式の貯湯槽においては、外部からの汚染の経路となりやすいマンホールの気密性、オーバフロー管の防虫網の完全性を点検する。

(2)　定期に貯湯槽の外観検査を行い、漏れや周囲の配管の状態を確認する。

(3)　休止中の貯湯槽を再開するときには、点検・清掃を行い、設定温度になるまで加熱してから使用する。

(4)　器具のワッシャには、細菌の繁殖を防止するために天然ゴム製のものを使用する。

(5)　使用していない貯湯槽の水は、停滞水の防止のため抜いておく。

問題 123　給湯設備の保守管理内容とその実施頻度との組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　給湯配管類の管洗浄 ―――――― 1年に1回以上

(2)　水栓のこま部の定期点検 ―――――― 1年に1回以上

(3)　第一種圧力容器の定期自主検査 ―――― 1か月以内ごとに1回

(4)　第二種圧力容器の定期自主検査 ―――― 1年以内ごとに1回

(5)　小型圧力容器の定期自主検査 ―――― 1年以内ごとに1回

問題 124　排水再利用設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　再利用水は、災害時における非常用の水として位置付けることができる。

(2)　建築物衛生法では、雑用水の水質基準項目として、COD が規定されている。

(3)　地区循環方式は、複数の建築物間で排水再利用設備を共同利用し、処理水を各建築物に送水して利用するものである。

(4)　再利用水受水槽は、耐食性及び耐久性のある材質のものを用いる。

(5)　竣工時に、再利用水を着色して通水試験を行い、上水系の器具に着色水が出ないことを確認する。

問題 125　雨水利用設備の単位装置と維持管理項目の組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

単位装置	維持管理項目
(1) 降雨水集水装置	屋根面の汚れ
(2) スクリーン	スクリーンの腐食状況
(3) ストレーナ	網の破損状態
(4) 沈砂槽	ばっ気撹拌(かくはん)状況
(5) 雨水貯留槽	槽内の沈殿物の有無

問題 126　排水再利用設備として用いられる膜分離活性汚泥処理装置に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1) 分離膜は、主に活性汚泥と処理水を分離する目的で用いられる。

(2) 膜モジュールを生物処理槽内に浸漬した槽内浸漬型が一般的である。

(3) 分離膜としては、主に逆浸透膜（RO 膜）が用いられる。

(4) 膜分離活性汚泥処理装置の後段の沈殿槽は不要である。

(5) 透過水量の低下を防止するため、定期的に膜の洗浄を行う。

問題 127　公共下水道に排出する排水が一定の基準値を超えた場合、下水道法第 12 条に規定する「除害施設」を設置して対応することが定められている水質項目として、**誤っている**ものは次のうちどれか。

(1) 温度

(2) 水素イオン濃度

(3) 生物化学的酸素要求量

(4) 窒素含有量

(5) 大腸菌数

問題 128　排水設備に関する語句の組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1) プラスタ阻集器	繊維くずの分離と収集
(2) トラップの補給水装置	封水の保持
(3) 排水口空間	飲料水槽の汚染防止
(4) 通気弁	負圧による空気の吸引
(5) 各個通気管	自己サイホン作用の防止

問題 129　阻集器に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　ボトルトラップは、実験用排水などからの固形物を阻集する場合に用いる。

(2)　トラップが直接組み込まれていない阻集器には、その出口側にトラップを設置する。

(3)　阻集器を兼ねる排水トラップの深さは、50 mm 以上とする。

(4)　砂阻集器に設ける泥だめの深さは、150 mm 以上とする。

(5)　オイル阻集器は、ガソリン及び油分の流出阻止のために用いる。

問題 130　排水通気設備に関する用語とその説明との組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　雨水貯留施設 ―――― 雨水の流出抑制を目的とし、浸透舗装、浸透ます、浸透トレンチなどから構成される施設をいう。

(2)　オフセット ―――― 排水立て管の配管経路を水平移動するため、エルボ又はベンド継手で構成されている移行部分をいう。

(3)　ブランチ間隔 ―――― 排水立て管に接続している各階の排水横枝管又は排水横主管の間の垂直距離が、2.5 m を超える排水立て管の区間をいう。

(4)　雨水排水ます ―――― 底部に 150 mm 程度の泥だまりを有し、土砂を堆積させ、下水道へそれが流出するのを防ぐ排水ますをいう。

(5)　トラップの封水強度 ―――― 排水管内に正圧、又は負圧が生じたときのトラップの封水保持能力をいう。

問題 131　排水管へ設置する掃除口及び排水ますに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　排水立て管には、3 階おき程度に掃除口を設ける必要がある。

(2)　厨房系統を除く管径 125 mm の排水管に接続する掃除口の管径は、最小 100 mm とする。

(3)　雨水排水ますの流出管は、流入管よりも管底を 10 mm 程度下げて設置する。

(4)　排水横管への掃除口の設置間隔は、管径 100 mm の場合は、通常 15 m 以内とする。

(5)　敷地排水管の直管が長い場合、排水ますは管内径の 120 倍を超えない範囲内に設置する。

問題 132　排水通気設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　伸頂通気方式において、排水横主管の水平曲がりは、排水立て管の底部より 3 m 以内に設けてはならない。

(2)　通気管の末端を、窓・換気口等の付近に設ける場合は、その上端から 600 mm 以上立ち上げて大気に開放する。

(3)　ループ通気管は、最上流の器具排水管が排水横枝管に接続される位置のすぐ下流から立ち上げて、通気立て管に接続する。

(4)　管径 65 mm の排水横管の最小勾配は、1/100 とする。

(5)　特殊継手排水システムは、排水横枝管への接続器具数が比較的少ない集合住宅やホテルの客室系統に多く採用されている。

問題 133　排水通気設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　ループ通気方式において、大便器及びこれと類似の器具が 8 個以上接続される排水横枝管には、逃がし通気管を設ける。

(2)　排水横管から通気管を取り出す場合、通気管は、排水管断面の水平中心から 30° 以内の角度で取り出す。

(3)　通気立て管の上部は、最高位の衛生器具のあふれ縁から 150 mm 以上高い位置で、伸頂通気管に接続する。

(4)　伸頂通気方式では、排水立て管と排水横主管の接続には、大曲がりベンドを用いる。

(5)　結合通気管は、高層建築物でブランチ間隔 10 以上の排水立て管において、最上階から数えてブランチ間隔 10 以内ごとに設ける。

問題 134　排水設備の保守管理に関する用語の組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　床下式の掃除口 ―――――――――― 砲金製プラグ

(2)　雨水敷地排水管の清掃 ―――――――――― ロッド法

(3)　敷地外からの建築物内への雨水の浸入 ―――― 可動式の堤防装置

(4)　排水槽の清掃 ―――――――――― 墜落制止用器具

(5)　厨(ちゅう)房排水槽の水位感知 ―――――――――― 電極棒

問題 135　排水通気設備の保守管理に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　グリース阻集器のトラップの清掃は、２か月に１回程度行う。

(2)　排水槽の清掃は、６か月以内に１回、定期的に行うことが、建築物衛生法で定められている。

(3)　水中ポンプのメカニカルシール部のオイルは、３～５年に１回、交換する。

(4)　通気管は、１年に１回程度、定期的に、系統ごとに異常がないか点検・確認をする。

(5)　排水ポンプは１か月に１回絶縁抵抗の測定を行い、１MΩ以上であることを確認する。

問題 136　衛生器具設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　大便器の給水方式には、タンク式、洗浄弁式、専用洗浄弁式がある。

(2)　壁掛型の小便器は、駅やホテルの共用部などにおいて床清掃のしやすさから選定されている。

(3)　設備ユニットは、室型ユニット、機器型ユニット、及び配管ユニット等に分類される。

(4)　JIS A 5207 では、節水Ⅱ形の大便器の洗浄水量は、6.5 L 以下としている。

(5)　大便器洗浄弁が接続する給水管の管径は 13 mm とする。

問題 137　浄化槽の高度処理における除去対象物質と除去法の組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

除去対象物質		除去法
(1)　浮遊性の有機物質	――――	急速ろ過法
(2)　窒素化合物	――――	生物学的硝化法及び生物学的脱窒法
(3)　リン化合物	――――	凝集沈殿法
(4)　溶解性の有機物質	――――	接触ばっ気法
(5)　アンモニア	――――	活性炭吸着法

問題 138　浄化槽法に規定する浄化槽管理者の責務として、**誤っている**ものは次のうちどれか。

(1)　設置届を提出すること

(2)　浄化槽設備士を置くこと

(3)　保守点検及び清掃を実施すること

(4)　法定検査を受検すること

(5)　廃止届を提出すること

問題 139　特殊設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　入浴設備において、気泡発生装置等のエアロゾルを発生させる設備を設置している場合は、浴槽水は毎日完全に換える必要がある。

(2)　入浴設備で浴槽からの循環水を消毒する場合は、消毒に用いる塩素系薬剤の投入口をろ過器から出た直後に設置する。

(3)　厨房機器が具備すべき要件として、食品に接する部分は、衛生的で、容易に洗浄・殺菌ができる構造とする。

(4)　水景施設において霧を発生させる装置を備える場合、当該装置に使用する水は、水道水と同等の水質とする。

(5)　プールの循環ろ過にオーバフロー方式を採用する場合には、オーバフローに床の洗浄水が入らない構造とする。

問題 140　消火設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　不活性ガス消火設備は、対象室が無人になったことを確認してから不活性ガスを放出して消火するものである。

(2)　屋内消火栓のうち、工場や倉庫等に設置されるのは２号消火栓である。

(3)　消火器は、火災の初期発見段階での消火を目的としたものである。

(4)　屋内消火栓設備は、自衛消防隊員等が拡大抑制、消火を目的として使用するものである。

(5)　連結送水管は、公設消防隊が使用するもので、消防隊専用栓とも呼ばれる。

問題 141　建築物における維持管理マニュアルについて（平成 20 年 1 月 25 日健衛発第 0125001 号）に示された、作業計画の項目として、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　作業概要

(2)　作業回数

(3)　作業時間

(4)　作業点検

(5)　作業方法

問題 142　ビルクリーニング仕様書に関する次の文章の［　　］内に入る語句として、**最も適当な**ものはどれか。

ビルクリーニング仕様書は、基本管理方針や作業範囲、作業概要、作業時間等を記載した総括的なものと、作業内容を詳細に図表で表した［　　］からなる。

(1)　ビルクリーニング作業計画表
(2)　ビルクリーニング品質管理表
(3)　ビルクリーニング作業基準表
(4)　ビルクリーニング作業予定表
(5)　ビルクリーニング点検評価表

問題 143　ビルクリーニングの作業計画に関する次の記述のうち、**最も適当な**ものはどれか。

(1)　廊下壁面のスポット洗浄は、日常清掃で実施する。
(2)　廊下壁面のスイッチ回りの洗剤拭きは、日常清掃で実施する。
(3)　エレベーターカゴ内部の除じんは、定期清掃で実施する。
(4)　エスカレーターパネルの洗剤拭きは、日常清掃で実施する。
(5)　トイレ・洗面所の換気口の除じんは、定期清掃で実施する。

問題 144　ビルクリーニング作業管理における、作業実施の流れと現場責任者業務の組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　予定された作業 ―――――― 作業予定表の作成
(2)　従事者に対する作業の指示・指導 ―――― 管理仕様書の作成
(3)　資機材の準備 ―――――― 作業手順書/作業ごとの使用資機材一覧表の作成
(4)　作業の実施 ―――――― 指示・指導
(5)　作業の終了（手直し） ―――――― 点検確認（手直し指示・指導）

問題 145　ビルクリーニング作業管理の評価と改善に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　目視点検を補う方法として、ATP 測定器を用いる方法がある。

(2)　作業点検の目的は、作業計画・作業手順書どおりに履行されているかを点検・評価し、その結果を改善に結び付けることである。

(3)　繊維床の堆積物検査は、吸引したダストフィルタの色が濃いほど、汚れが多いと判断される。

(4)　光沢度計は、数値が高いほど、汚れや傷が多いと判断される。

(5)　臭気検査器は、ごみ保管場所等の臭いを測定し、臭いの有無及び清掃等による改善の効果測定に使用する。

問題 146　清掃品質の評価者がインスペクションの実施にあたって行う事項に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　準備において、具体的に評価範囲を決め、インスペクションを行うための実施計画を立案する。

(2)　インスペクション実施計画に従って、事前に準備した品質評価シートを用いて点検を実施する。

(3)　改善において、改善内容や具体的な対策を示して、清掃従事者に指示をする。

(4)　改善を指示した箇所について、指示どおりに改善できているか、再度点検する。

(5)　顧客視点に立ち、業務の精度を向上させるためのものと認識し、客観的評価と提案を心掛ける。

問題 147　予防清掃に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　高気密化した現代の建築物では、ほこりの侵入路は窓や隙間ではなく、主に出入口を経由する。

(2)　ほこり以外の汚れ物質は、人間の活動に伴って付着することが多い。

(3)　建材が親水性か疎水性かによって、付着する汚れの種類は異なる。

(4)　汚れは平滑緻(ち)密な表面には付着しにくいが、付着すると除去しにくい。

(5)　多くのほこりが発生するところは、適切な頻度での除じん作業が重要である。

問題 148　カーペット清掃用機械・器具に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　カーペットスイーパは、パイル内部のほこりを除去するのに適している。

(2)　洗剤供給式床磨き機は、化学繊維のタフテッドカーペットの洗浄に適している。

(3)　真空掃除機は、電気ファンによって機械内部に空気の低圧域を作り、ホース等を通じてほこりと空気を吸い込んで捕捉する機械である。

(4)　アップライト型真空掃除機は、床を回転ブラシで掃きながら、ごみやほこりを機内に吸い込む構造である。

(5)　スチーム洗浄機は、カーペットのしみ取りにも使われる。

問題 149　ビルクリーニング用器具に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　凹凸のある床面は、ブラシを床磨き機に装着して洗浄する。

(2)　化学繊維である不織布タイプのダストクロスは、不乾性の油剤を使用してほこりを除去する。

(3)　自在ぼうきは、頭部に可動性があるので、机の下を掃くのに適している。

(4)　改良ちり取り（文化ちり取り）は、拾い掃き用に適している。

(5)　三つ手ちり取りは、やや多量のごみを処理するのに適している。

問題 150　建材に対する床維持剤や洗剤の選択に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　シールされていない木質床材の表面保護に、フロアオイルを使用した。

(2)　床面に塗布された樹脂床維持剤の皮膜の洗浄に、表面洗剤を使用した。

(3)　真鍮（ちゅう）製のドアノブの洗浄に、研磨剤入り洗剤を使用した。

(4)　塩化ビニルタイル床の汚れ防止に、フロアポリッシュ水性ポリマータイプ（樹脂ワックス）を使用した。

(5)　コンクリート床を汚染した鉄錆（さび）の除去に、酸性洗剤を使用した。

問題 151　弾性床材の特徴と維持管理に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　ゴムタイル床材は、塩化ビニル系床材と同じ洗浄方法で管理できる。

(2)　塩化ビニル系床材には、床維持剤の塗布が不要の製品が販売されている。

(3)　床維持剤を塗布することで、汚れが付きにくくなる。

(4)　塩化ビニルシートは、床維持剤の密着不良が起きやすい。

(5)　塩化ビニル系床材は、耐薬品性や耐水性に富む。

問題 152　繊維床材の特徴と維持管理に関する次の記述のうち、**最も適当な**ものはどれか。

(1)　事務所建築物の繊維床材のしみは、約 60 %が疎水性である。

(2)　ウールの含水率は 0.5 %程度なので、親水性の汚れはしみになりにくい。

(3)　合成繊維カーペットの洗浄には、多量の液を噴霧するエクストラクタが使える。

(4)　長尺の繊維床材は、モルタルで床に張り付けている。

(5)　ポリプロピレンに付着した親水性の汚れは、ナイロンより取りにくい。

問題 153　硬性床材の特徴と維持管理に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　磁器、陶器、炻(せっ)器の中では、陶器が最も吸水率が低い。

(2)　大理石は、土砂により表面の艶がなくなる傾向にある。

(3)　油分をしみ込ませたダストモップは使用しない。

(4)　セラミックタイルは、耐摩耗性に優れる。

(5)　大理石を種石に用いているテラゾは、耐酸性・耐アルカリ性に乏しい。

問題 154　床維持剤のドライメンテナンス法に関する次の記述のうち、**最も適当な**ものはどれか。

(1)　ウェットメンテナンス法に比べて部分補修がしにくい。

(2)　ドライバフ法で用いる床磨き機は、回転数が高いとフロアポリッシュの皮膜を傷めるので、低速で使用する。

(3)　ドライバフ法で用いる床磨き機は、床面の土砂やほこりも同時に除去できる。

(4)　スプレークリーニング法の仕上げには、フロアポリッシュを塗布する。

(5)　ウェットメンテナンス法に比べて、滑りによる転倒事故が多いので注意が必要である。

問題 155　我が国の廃棄物処理政策の変遷に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　1900 年代に汚物掃除法が制定され、塵芥(じんかい)、汚泥汚水及び糞尿(ふんにょう)が汚物とされた。

(2)　1950 年代に清掃法が制定され、汚物を衛生的に処理し、生活環境を清潔にすることにより、公衆衛生の向上を図ることとなった。

(3)　1970 年代に廃棄物処理法が制定され、汚物に加えて不要物の概念が追加された。

(4)　1990 年代に廃棄物処理法が改正され、廃棄物が産業廃棄物と一般廃棄物とに分類された。

(5)　2000 年代に循環型社会形成推進基本法が制定され、同法に基づく基本計画において発生の抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）を進めることとされた。

問題 156　令和３年度の産業廃棄物の排出量を業種別に見たとき、排出量が**最も多い業種**は次のうちどれか。

(1)　農業・林業

(2)　電気・ガス・熱供給・水道業（下水道業を含む）

(3)　パルプ・紙・紙加工品製造業

(4)　食料品製造業

(5)　建設業

問題 157　あるごみの三成分を調べたところ、水分が 20 %、灰(かい)分が 10 %であった。このごみの可燃分/不燃分の比の値として、**最も近い**ものは次のうちどれか。

(1)　0.5

(2)　2.0

(3)　2.3

(4)　3.5

(5)　7.0

問題 158　廃棄物処理法に規定する専ら再生利用の目的となる廃棄物として、**該当しない**ものは次のうちどれか。

(1)　事務所内で集めた古新聞

(2)　飲食店内で分別したスチール製の空き缶

(3)　飲食店内で分別したガラス瓶

(4)　飲食店内で使用された割り箸

(5)　事務所内で発生した古繊維

問題 159　廃棄物処理法における一般廃棄物の処理に関する次の条文の［　　］内に入る語句の組合せとして、**正しい**ものはどれか。

［ア］は、その区域内において事業活動に伴い多量の一般廃棄物を生ずる土地又は建物の［イ］に対し、当該一般廃棄物の［ウ］に関する計画の作成、当該一般廃棄物を運搬すべき場所及びその運搬の方法その他必要な事項を指示することができる。

	ア	イ	ウ
(1)	都道府県知事	占有者	減量
(2)	都道府県知事	所有者	適正処理
(3)	市町村長	占有者	減量
(4)	市町村長	所有者	適正処理
(5)	市町村長	所有者	有効利用

問題 160　産業廃棄物管理票（紙マニフェスト）を交付した排出事業者に関する次の記述のうち、**最も適当な**ものはどれか。

(1)　返却されたマニフェストの伝票は、10年間保存する必要がある。

(2)　虚偽の記載のあるマニフェストの写しを受け取った場合には、業者に処分状況を確認するとともに都道府県知事（政令指定都市の長及び中核市の長を含む）に報告する必要がある。

(3)　特別管理産業廃棄物の処理依頼から30日経過してもマニフェストのB2票及びD票が返却されない場合は、委託業者に問い合わせる必要がある。

(4)　産業廃棄物の処理依頼から120日経過してマニフェストのE票が返却されない場合は、委託業者に問い合わせる必要がある。

(5)　産業廃棄物管理票交付等状況報告書を日本産業廃棄物処理振興センター（JWセンター）に報告する必要がある。

問題 161　廃棄物管理責任者に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　廃棄物の担当部局と連絡調整を行う。

(2)　テナント事業者に分別ルールや排出方法等の周知徹底を図る。

(3)　建築物から排出される廃棄物の種類・量等を把握する。

(4)　3Rの推進には関与できない。

(5)　選任に際し、法令による資格要件はない。

問題 162　廃棄物の系内処理設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　一般に厨芥（ちゅうかい）の処理には圧縮機が用いられる。

(2)　貯留排出機は、圧縮・貯留・排出する機能を有し、機械式収集車に自動的に積み替えができる設備である。

(3)　建築物内で用いられる圧縮機の圧縮率は、1/3～1/4のものが多い。

(4)　溶融固形化装置は、発泡スチロールに用いられる。

(5)　缶圧縮機は、スチール缶とアルミ缶に分別し圧縮することで減容ができる。

問題 163　建築物内廃棄物の系内処理システムに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　不連続方式では、水平移動や垂直移動が工程に含まれる。

(2)　連続方式には、真空収集システムが含まれる。

(3)　建築物内での一時貯留と運搬には、コレクタが多く使用される。

(4)　中間集積所には、専用処理設備が設置されており、在館者の立ち入りを禁止する。

(5)　中央集積所には、冷蔵庫や計量装置などが設置されることがある。

問題 164　建築物内廃棄物の保管場所に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　廃棄物保管場所の設置面積の算出には、全国一律の基準が適用される。

(2)　ねずみ等の生息状況等を調査することが決められている。

(3)　ねずみ等の誘引、侵入防止を図るため、防虫・防鼠（そ）構造とする。

(4)　床や壁面は、不浸透性の材質とする。

(5)　分別、収集、保管が支障なく行えるよう、十分なスペースを確保する。

問題 165　特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）の対象品目に、**規定されていない**ものは次のうちどれか。

(1)　エアコン

(2)　デスクトップパソコン

(3)　冷蔵庫

(4)　液晶テレビ

(5)　衣類乾燥機

問題 166　チカイエカの特徴に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　成虫になって最初の産卵は、吸血しなくてもできる。

(2)　狭い空間でも交尾できる。

(3)　建築物の地下にある浄化槽などでは、冬季でも成虫が見られる。

(4)　成虫の外部形態は、アカイエカに類似しており、両種の判別は困難である。

(5)　不完全変態の昆虫である。

問題 167　ゴキブリに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　ヤマトゴキブリは、冬期に屋外で休眠越冬をする。

(2)　トビイロゴキブリは、前胸背板にいかり状の黄斑紋がある。

(3)　クロゴキブリの卵鞘（しょう）は、成虫の唾液等で隙間などに固着される。

(4)　ワモンゴキブリの食性は、発育ステージによって変化する。

(5)　日本には約 60 種類のゴキブリが生息する。

問題 168　次の殺虫剤の有効成分のうち、チャバネゴキブリに対し、明らかに**追い出し効果を示す**ものはどれか。

(1)　ジクロルボス

(2)　ペルメトリン

(3)　オルトジクロロベンゼン

(4)　プロポクスル

(5)　ジフルベンズロン

問題 169　ダニの種類とヒトに対する健康被害の組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　イエダニ ―――――― 吸血

(2)　ミナミツメダニ ―――――― 皮下への内部寄生

(3)　ヤケヒョウヒダニ ―――――― アレルギー性疾患の原因

(4)　フタトゲチマダニ ―――――― 感染症の伝播（ぱ）

(5)　カベアナタカラダニ ―――――― 大量発生による不快感

問題 170　ダニに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　頭部・胸部・腹部の区分がない。

(2)　触角がある。

(3)　成虫には４対の脚がある。

(4)　屋内塵にも生息している。

(5)　食品中に発生することがある。

問題 171　建築物内やその周辺で見られる昆虫等に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　ユスリカ類は、気管支喘息のアレルゲンとなる。

(2)　ネッタイトコジラミでは、有機リン剤に対する抵抗性を示す集団が知られている。

(3)　ニュウハクシミは、古文書などの紙を食害することが知られている。

(4)　シラミ類は、ヒトに寄生して吸血する完全変態の昆虫である。

(5)　セアカゴケグモの毒液中には、神経毒が含まれている。

問題 172　建築物内やその周辺で見られる昆虫等に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

(1)　ツツガムシ類は会議室の絨毯から発生する。

(2)　ネコノミはイヌにも寄生する。

(3)　ノシメマダラメイガの成虫は、床上の低いところを飛翔する性質がある。

(4)　ホシチョウバエはカ亜目（蚊の仲間）に属する。

(5)　ドブネズミにはイエダニが寄生する。

問題 173　殺虫剤の有効成分とその対象害虫の組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　ヒドラメチルノン ―――――― チャバネゴキブリ幼虫・成虫

(2)　フェニトロチオン ―――――― チャバネゴキブリ幼虫・成虫

(3)　エトフェンプロックス ―――― アカイエカ幼虫

(4)　ブロフラニリド ―――――― トコジラミ幼虫・成虫

(5)　ピリプロキシフェン ―――― イエバエ成虫

問題 174　殺虫剤の抵抗性に関する次の記述のうち、**最も適当な**ものはどれか。

(1)　有機リン剤とピレスロイド剤では作用機構が同じなので、交差抵抗性が発現しやすい。

(2)　１匹の昆虫が薄い濃度の殺虫剤に何度も曝露（ばく）されると、その個体は殺虫剤抵抗性となる。

(3)　こまめに殺虫剤を処理することで、殺虫剤抵抗性は生じにくくなる。

(4)　有効成分に対する抵抗性以外に、ベイト剤を忌避する個体が増加して駆除効果が減退することがある。

(5)　限定的な空間で世代をくり返す害虫では、殺虫剤抵抗性が発達しにくい。

問題 175　殺鼠（そ）剤とそれに関連する事項との組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　ブロマジオロン ―――― 建築物衛生法に基づく特定建築物内では使用不可

(2)　ジフェチアロール ―――― 第２世代の抗凝血性殺鼠剤

(3)　リン化亜鉛 ―――― １回の経口摂取で致死

(4)　ノルボルマイド ―――― 第１世代の抗凝血性殺鼠剤

(5)　ワルファリン ―――― 大量に摂取しても１回の投与ではほとんど致死効果はない

問題 176　殺鼠（そ）剤の効果に関する次の記述のうち、**最も適当な**ものはどれか。

(1)　クマリン系殺鼠剤はネズミに食べさせることで効果が現れる。

(2)　粉剤の鼠穴内部への散粉処理は、殺鼠剤を経皮的に取り込ませることを狙った処理法である。

(3)　ネズミの殺鼠剤抵抗性発達の原理は、昆虫とは異なる。

(4)　急性殺鼠剤は１回摂取すると、数日後に致死する。

(5)　効果を高めるためには、周辺に誘引性の強い他の餌を、そのまま置いておく。

問題 177　毒性や安全性に関する語句とその説明の組合せとして、**最も不適当な**ものは次のうちどれか。

(1)　LD_{50} ―――― ある動物集団に投与したとき、その半数が致死する薬量

(2)　ADI ―――― ヒトが一生の間に毎日体内に取り込んでも、健康に悪影響がないと判断される体重1kg当たりの1日摂取薬量

(3)　NOAEL ―――― 実験動物に長期間にわたって連日投与しても、なんら有害作用が認められない最大薬量

(4)　選択毒性 ―――― 化合物の毒性が生物種によって異なることで、その差が大きいほど影響の違いは大きい

(5)　劇薬 ―――― 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律で定められた毒薬よりも、毒性が強い薬剤である

問題 178　防虫・防鼠(そ)構造や防除に用いる機器に関する次の記述のうち、**最も適当な**ものはどれか。

(1)　液化炭酸ガス製剤は、有機溶媒を使用しているので、噴射器を用いて処理すると溶剤臭がする。

(2)　超音波防鼠機は、ネズミが嫌がる20kHz前後の超音波を発信する機器である。

(3)　ベイトガンは、シリンジに充填された薬剤を飛翔性昆虫類に向けて発射するための器具である。

(4)　粘着トラップを1週間使用して防除効果を評価する場合、捕獲総数を配置トラップ数で割った捕獲指数で評価することができる。

(5)　光源に高圧水銀灯を用いた場合は、白熱電球を用いた場合よりも、昆虫に対する誘引性が低いことが知られている。

問題 179　建築物内における防除作業実施時の対応に関する次の記述のうち、**最も適当な**ものはどれか。

(1)　室内の狭い場所で薬剤散布を行う場合は、N95マスクを使用する。

(2)　特定建築物内で薬剤処理を行う場合、処理区域の入口に、処理前後とも3日間はその旨の掲示を行う。

(3)　配電盤内のゴキブリを駆除する場合、乳剤の希釈液を直接散布するとよい。

(4)　第2種酸素欠乏危険作業にかかる作業場にあっては、内部の一酸化炭素濃度を測定し、基準値以下であることを確認したのち作業を行う。

(5)　薬剤の散布を行う際は、軍手を着用する。

問題 180　衛生害虫や殺虫剤に関する次の記述のうち、**最も適当な**ものはどれか。

(1)　農薬は建築物衛生法に基づく特定建築物内でのゴキブリの防除に使用できる。

(2)　昆虫などに対する不快感の程度は、第三者による客観的な判断が困難である。

(3)　ツバメの建築物への営巣は、ヒトに対するヒゼンダニの寄生被害の原因となる。

(4)　ニューサンスコントロールとは、感染症を媒介する衛生動物の防除を指す。

(5)　昆虫成長制御剤（IGR 剤）は、成虫に対する致死効力がある。